

市民福祉常任委員会分

番号	質疑内容	答弁内容
1	<p>身体障がい者連合会が高齢化している。3年前は200名程度だったのが現在は60数名であり、解散するのではと心配している。連合会では、パンフレットを作っているのので、それを使って地域の障がい者手帳を持っている方に入会を呼び掛けて欲しい。</p>	<p>会員の高齢化や会員数の減少については、市としても課題として認識しています。パンフレットについては、福祉課窓口において、案内等を行いたいと考えます。</p> <p>また、市ホームページで団体紹介を行う準備を行っておりますほか、「FMたんと」を活用した情報発信も可能ですので、団体に説明したいと考えます。</p>
2	<p>平成15年から身障連への補助金がカットされ、現在53,000円しか補助金がなく、運営が厳しい。会員が少ない所は会費が余計にかかる。消費税が上がるので、予算を2万円ほど上げて欲しい。消費税10%は厳しい。一律1万円カット+会費を1万円出さないといけない。</p>	<p>団体の実情をお伺いしたうえで、対応について検討したいと考えています。その上で、消費税増税の影響などについても精査したいと考えています。</p>
3	<p>市民病院の建設について進捗状況を教えてしい。</p>	<p>平成30年11月14日に設計事業者の株式会社石本建築事務所と契約を締結して以降、基本設計の作業を平成31年5月までの日程で進めているところです。基本設計においては、新病院建設基本計画を踏まえたうえで、新病院のレイアウトや形状、空間、寸法等を検討していきますが、平成30年12月までは、院内のワーキンググループや建設幹部会等において新病院における各部門の配置や広さを</p>

		<p>決めていくブロックプランの検討を中心に行い、平成 31 年 1 月以降は、より詳細な平面計画、医療備品レイアウト等へと進め、平成 31 年 5 月の基本設計図書完成の予定としています。</p> <p>また、平成 29 年度に事前調査を実施した新病院建設に伴う埋蔵文化財の本調査についても、平成 30 年度中の完了予定で並行して進めているところです。</p>
4	<p>障がい児デイサービスにおいて、発達障害の子どもを預けられる日数に限度がある。 中学校にあがったら週 1 日しか預けられない。 市独自で出来るならお願いしたい。</p>	<p>放課後等デイサービスは、療育が必要な児童等に必要な訓練や学習などを行うことを目的としており、利用できる日数は児童に対する支援の必要性に応じて市が決定しています。利用できる日数については基準があり、一般的には低年齢の児童の方が多くなっていますが、中学生でも障がいの程度に応じて、利用できる日数を増やす場合もありますので、福祉課にお尋ねください。</p>
5	<p>新病院にも通訳を設置できるのか？福祉に力を入れて欲しい。</p>	<p>現在、市民病院には、週に 1 回木曜日の午前中だけの配置ですが、手話通訳の方に来ていただき、手話による通訳が必要な患者さんへの対応を行っていただいています。</p> <p>業務内容は、院内の案内や各種相談の仲介、患者さんの希望があれば診察時の通訳などを行っております。</p> <p>新病院が開院し設備や機能等が充実しても、引き続き、手話による相談業務は継続していかねばならないものと考えております。</p>

		<p>手話通訳以外では、毎日午前中のみですが、2名の案内係を1階受付前に配置しております。</p> <p>業務内容は、ご高齢の患者さんや車いすが必要な患者さんの受付までの介助や診察ブロックへの案内など、来院される方への声掛けを中心に業務を行っております。この業務につきましても、新病院になりましても、引き続き継続していきたいと考えております。</p>
6	<p>ごみ袋の価格が他市と違うのはなぜか？</p>	<p>荒尾市の指定有料ごみ袋の価格につきましては、平成20年度からの有料化の導入をするにあたり、平成18年度の可燃ごみの処理経費（RDFセンター建設における起償償還分を除いた）実績を基に算定しています。</p> <p>平成18年度の可燃ごみの処理経費は、約3億6,600万円でした。</p> <p>この経費を可燃ごみ量、15,985トンで割りますと、1キログラム当たり約22.9円となります。</p> <p>45リットル袋には平均して約7キログラム入りますので、1袋あたり約160円の処理経費がかかる計算になります。160円を45リットルで割りますと、1リットル当たり3円55銭となります。</p> <p>この処理経費の3分の1程度を負担していただくことで検討してきた所であり、また、ごみの共同処理を行い、生活圏も同じである大牟田市の1リットル当たり1円も参考</p>

		<p>に、算定しております。</p> <p>また、廃棄物の収集につきましても各自治体で違いがございます。荒尾市では、収集車両が通行することが困難な地域を除き、殆どのお宅の前に出していただくと収集して参りますが、回収場所まで出していただく自治体もございます。</p> <p>リサイクルでの資源ごみの出し方につきまして、荒尾市は袋については特に指定はありませんが、それぞれの分類ごと、有料の指定袋ではないと回収しない自治体もございます。</p> <p>その品目につきましても、荒尾市では資源ごみで回収しています、金属類、小型家電類、びん類などを不燃ごみで回収している自治体もあります。</p> <p>他の自治体の有料指定ごみ袋の価格につきましては、それぞれ自治体によりサービスの形態の違いがあり、それに応じた価格を設定されているものと思われます。</p>
7	老人介護施設など高齢者施設をもう少し作って欲しい。	平成 30 年度から平成 32 年度までを対象期間とした「第 7 期荒尾市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」の策定に当たり実施した「長寿社会に向けての市民意識調査」においては、8 割以上の方が「在宅サービスや施設は現状維持で介護保険料を上げないでほしい」と回答されており、約 7 割の方が自分が介護が必要な状態となった時の生活の場として、在宅介護を希望すると回答されております。

		<p>また、別に、主な介護者に対し実施した「在宅介護実態調査」においては、約7割の方が施設入所は検討していないと回答されております。</p> <p>このことを踏まえ、在宅介護を支援する目的で、訪問、通い及び宿泊の3つのサービスを一体的に提供する「小規模多機能型居宅介護事業所」を2か所、整備に向けた手続きを進めているところです。</p> <p>次期計画の策定において、今回の御意見を参考にさせていただきたいと考えております。</p>
8	<p>防災に関して、防災の専門の課(防災課)を作るべきではないか。また、地域に合わせた防災マップを作りたい。</p>	<p>防災の専門の課の新設につきましては、行政課題が多様化する中、既存の組織の枠組みでは対応が困難になってきているため、現在策定中の行政経営計画において、経営資源を効率的に活用し、スピード感を持った対応ができるよう検討しています。</p> <p>また、防災マップの作成につきましては、現在の防災マップが作成から5年が経過しており、都道府県が指定している土砂災害警戒区域等の新たに追加となった災害情報などが反映されていませんので、現在、新しい防災マップ・防災ブックの作成に向けた検討を行っております。内容については市民の皆様が自ら防災対策を考え、対策を講じることができるような工夫を施すなど充実した総合的な防災マップの作成を進めてまいります。</p>

9	<p>要支援者のマップを作る等話を聞いているが、同じような状況か？名簿作りも他の市は進めている。</p>	<p>避難行動要支援者管理システムを今年度入替え予定であり、新しいシステムでは、地図情報も表示ができるようになります。</p> <p>避難行動要支援者名簿については、本市において既に作成済みですが、本年度、避難行動要支援者支援計画の改定作業を行っており、その中で情報の整理を行う予定です。</p> <p>今後、準備のできた地区から、地図情報等を活用しながら避難行動要支援者の個別計画策定に取り組んでいく予定です。</p>
10	<p>リサイクルについては、家の近くに置けるようにしてほしい。</p>	<p>リサイクルステーションについては、概ね 50 世帯に 1 か所を目安として、地域単位での世帯数、面積、道路の幅、スペースの有無等、ステーションは地域の実情により設置しております。</p> <p>ご要望につきましては、環境保全課までご相談くださいますよう、お願いいたします。</p>
11	<p>民生委員の活動をしやすくしてあげて欲しい。民生委員の欠員は全国でもトップクラスである。実態に合った対応をしてほしい。</p>	<p>民生委員の欠員については本市としても憂慮しており、欠員地区については、区長はもとより地区協議会や行政協力会にも推薦を呼びかけ少しずつ欠員は減少しているものの解消には至っておりません。(平成 28 年 11 月改選当時 23 人→平成 30 年 12 月 1 日現在 10 名)</p> <p>これまで民生委員の業務については、合理化や負担軽減に努めておりますが、民生委員について地域の理解を深め</p>

		<p>るため、民生委員の活動等について周知啓発に取り組む必要があると考えています。</p>
12	<p>年金が10万円。年金の額が下がってきている。介護保険にも、お金がかかっている。消費税が10%になったら生活できない。どうにかして欲しい。</p>	<p>収入の減少や各種サービス負担、消費税の引き上げによる支出の増加などで、生活の困りごとや不安を抱えている場合は、まずは、市役所内に設置しております『荒尾市生活相談支援センター』をご利用ください。</p> <p>支援員が相談を受けて、どのような支援が必要かを相談者と一緒に考え、具体的な支援プランを作成し、寄り添いながら自立した生活に向けた支援を行います。</p>
13	<p>認知症サポーター養成ばかりが先行しているが、その先の取り組みを考えて欲しい。</p>	<p>平成29年度より認知症サポーターになっておられる方を対象として、更なる認知症の対応についての技能向上を深める「認知症サポーターステップアップ講座」を開催しております。講座受講者の中から、認知症サポーターとして活動を行う団体として「認伴の会」を結成し、認知症カフェ・小中学校における認知症サポーター養成講座の補助者としての参加や、地域の認知症高齢者の見守りなどで活動を行っております。</p> <p>現在、幅広い年代層を対象として、認知症サポーターやステップアップ講座を開催し、その先の取り組みも始めております。</p> <p>今回の御意見を参考にさせていただき、今後も認知症の方を支える地域づくりの推進に努めてまいります。</p>

		（「認伴の会」登録者数 53名 平成30年12月現在）
14	認知症の相談窓口はどこなのか？広報などで周知して欲しい。	<p>公的な認知症相談窓口は、市役所内の「地域包括支援センター」であり、広報あらかお毎号の相談窓口のページに無料認知症相談の日時などを掲載しております。</p> <p>今後も、広報や出前講座などで、継続した周知を図っていきます。</p> <p>※広報9月号で認知症の特集記事を掲載</p>
15	ふれあい福祉センターにも手話通訳の配置を	<p>現在は、市役所と市民病院に週1回ずつ手話通訳を配置しています。熊本県手話サークルわかぎ荒尾グループに手話通訳者の派遣をお願いしておりますが、同グループにおいても人材の確保及び育成には苦勞されているところです。</p> <p>新たな手話通訳の設置については、関係団体と協議して検討したいと考えております。</p>
16	民生委員のいない地域があるので適任者の任命を	<p>地域における適任者については、民生委員児童委員協議会連合会会長や地区担当理事をはじめ、区長や地区協議会や行政協力会からもご推薦いただき、市からも訪問しています。</p> <p>引き続き地域の方と連携し、民生委員の欠員解消に努めてまいります。</p>

